

# 温篤新聞

通巻130号



## 「トロツコ問題」を考える。

昨年12月に端を発したコロナウイルス。我が国でも春節を境に日に日に深刻的な問題となり、ついには終戦後初の非常事態宣言が発令される事態にもなりました。

政府の対策の内容やタイミング等々には、責任の無い立場からすれば物申したい事が多々あり憤りを感じますが、我々国民は国の責任を負う政府が下した決断に従うしかなく、それが正当であったか否かは次の選挙でしっかりと審判を下すしかないと思います。

そんな責任問題について哲学者フイリッパ・フット氏が提唱した『トロツコ問題』を通して

考えてみたいと思います。

トロツコ問題とは「ある人を助けるために他の人を犠牲にすることは許されるのか」という倫理的なジレンマについて考えるもので「線路を走っているトロツコが制御不能になり、このまま放つておけば先にいる5人がひき殺されてしまうが、分岐レバーを切り替えれば、5人は助かるが、もう一方に他の1人が犠牲になってしまう」というものです。どちらの選択をしても犠牲者は出ますが、5人を助けるためには1人を犠牲にすることは、やむを得ないと考えるのか、それとも知

## 医食同源

### イクラ

胃腸を温め、正常な機能を保ち、消化を助けて食欲を増進する働きがあります。元気が出ない時や体力が低下している時、貧血ぎみの時など、栄養を補給するのに良いとされます。

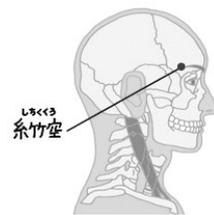


## 今月のツボ

### 絳竹空(じやうちくくう)

「絳」という字は、いと・細糸・糸のように細いすじという意味で、ここでは眉を指しています。

「竹」は、たけで、竹の葉の形から、眉の形を意味しています。「空」はすきまを意味します。したがって、この三つの漢字の意味を合わせると、眉が糸のように細く、なつたへりで、くぼんでいる所にある



ツボという意味になり、場所を表しているツボ名になります。

場所は、眉の外端を指で押さえて上下に動かすと、骨の小さなくぼみに触れることができます。そこに取ります。

目の充血、目の疲れ、片頭痛、顔のむくみ等に、他の目の周辺のツボと共に用いられる事で、一層の効果が期待できます。

りながら何もせず、関わらなかった人となるかというジレンマです。

恐らく世界中の国の党首は、全ての国民を救おうと全力を注ぐはずですが、おそらくきつと：いやそう信じたい。しかし、その中で残念な結末を迎えたり、不利益を被る人がいる事も理解したいとも思います。あ。。(それにしても憤りが...)。

そんな責任問題を考える中、雑誌で『市販薬を飲んではいけない新型コロナウイルス』という記事を見ました。

解熱剤は、身体が免疫力を上げるために体温を上げているので無理に熱を下げると治るのが遅くなる。とか、咳止めは、痰を出しウイルスが肺に入るのを防ぐための働きを抑えてしまう。頭痛薬は、副作用として喘息症状を発症するものがあるので要注意というものです。

これらの問題は、新型コロナウイルスに限らず、いわゆる一般的な風邪も同様になりますが、放っておけば自己責任になりませんが、医師に処方してもらった事によって責任が転嫁される事となり、身体に害はあっても自身の選択に対する責任は軽減できません。

一般的に風邪に関わる薬で致命的な結果を迎える事は稀な事かもしれませんが、猛威を振るっているコロナでは致命的になり兼ねないとも言えます。

様々な情報が錯綜する世の中ですが、その中で大切な情報を取り入れ、他人のせいにするのではなく、自覚を持ちながら、この国難いや世界難を皆で乗り越えていきたいものです。



# 二十四節気と七十二候

「くらしのこよみ」より

日本には美しい四季があります。春、夏、秋、冬…折々の豊かな表情は日々の生活に彩りを与えます。日本人は昔から季節感を大切にして暮らしの中に取り入れてきました。

そのよりどころとなったのが、『二十四節気』です。地球から見た太陽の通り道「黄道」三六〇度を十五度ずつ二十四に区切り、その一つ一つに節気を配して四季の移り変わりを表したものです。一つの節気は十五日程度になります。

また、二十四節気の一つ一つをさらに三区分し、季節の風物を言葉で表現したものが『七十二候』です。こちらはだいたい五日単位で、その季節の特徴的な自然現象を意味する名前がつけられています。

## 二十四節気

### 立夏

(五月五日)

夏の始まりの時期で、春分と夏至の中間にあたります。夏の始まりといいましたが、この後に梅雨を経なければ、本格的な夏には至りません。ゴールデンウィークの終盤にもあたり、世の中は新緑を愛でる行楽シーズンたけなわといったところでしょうか。

### 『信頼が信頼を生む』

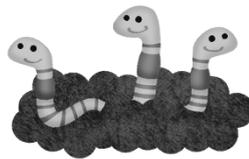
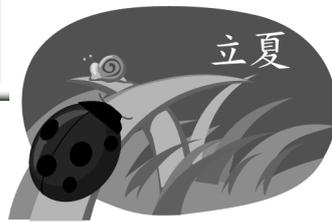
「任せる」「任される」、この関係が成り立っていくためには、お互いの信頼と「育てる」「育てられる」という意識が最も重要です。そのためには、まず任せる側が相手の長所を見抜いて、相手を信頼するべきでしょう。そうすれば任される側もその信頼と期待に応え、相手に安心してもらえるよう努力しようという気持ちを引き出されてくるのです。同じように仕事を任されたとしても、任す側が任せる相手を信頼しているのとはしていないのでは、結果において大きな差が生じてしまいます。なぜならば、表面ではいかにも相手を信頼しているかのように見せかけて、実は腹の中では少しも信頼していないという場合、相手の人には間違いなく、すぐに分かるからです。信頼が信頼を生むのです。

「一日一話」より

七十二候 (五月十日～十四日頃)

### 蚯蚓出(おびる)

冬眠していたミミズが地上に這い出してくる、という意味の言葉です。土中で越冬した動物が起き出してくる時期としては、3月上旬の「啓蟄」の候が一般的に知られますが、ミミズは他の生き物と比べて目覚めが遅いのでしょうか、その頃に畑や花壇の土を掘ると、まだ眠そうに横たわっているミミズに出くわす事がよくあります。



### 旬のさかな

### 黍魚子(きびなご)

中部以南の暖かい海で獲れるイワシの一種。体の中央に幅広い銀白色の帯があるのが特徴です。



極めて早く鮮度が落ちますが、獲れたてを刺身にした「菊花づくり」は鹿児島の名物です。その他、丸干しや唐揚げにしてよく食べられます。

## 5月

○印はお休みです

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

### 執筆余話

3月迄はさほど影響の無かった当院も、緊急事態宣言が出てからは徐々に自粛される方が増えてきました。不要不急という表現が個人によって多少違うとは思いますが、御来院を控える患者さんの決断もまた懸命な選択だとも思います。

しかし、個人事業の経営者としてはやはり不安も抱くわけで、そんな中でも足を運んで頂ける患者さんには有難い限りです。患者さんの前で涙するわけにはいかなので泣きませんが、それくらい有難く感じています。

患者さんにとっても私にとっても、最悪の事態を考えると「これが最後になるのも…」と思いがよぎる事もあります。

なんて話をしてしていると暗くなってしまふので、必ずまた日常はやってきます!!またお会いできる時まで、どうぞ御無事にお過ごしください。

